

# 令和2年第1回川本町議会定例会会議録

(第2日目) 令和2年3月12日 午前9時30分開議

議長

おはようございます。  
定刻となりましたので、ただいまより本会議を開催いたします。  
本日も皆様方には続いてご出席をいただき、誠にありがとうございます。  
ただいまの出席議員数は8名であります。定足数に達しておりますので、  
会議は成立いたしました。

々

それではただちに、本日の会議を開きます。

々

本日の議事日程は、お手元に配布しているとおりです。

々

日程第1「一般質問」を行います。  
あらかじめ、申し上げておきますが、質問者は通告されました質問の全部  
につきまして、最初、壇上で質問していただき、再質問以降は質問席にてお  
願いを致します。  
そして答弁者は、議長において指定した項目のみに、登壇のうえ、答弁を  
していただきます。  
更に、2回目以降の答弁は、自席にてお願いを致します。  
それでは通告順に従い、順次質問を許します。

々

はじめに、木村議員の一般質問を行います。2番木村議員。

2番

木村議員

皆さんおはようございます。任期満了に伴い、令和2年2月4日に告示さ  
れました川本町町長選挙において初当選されました野坂新町長にご当選のお  
祝いをもって先ずお祝いを申し上げたいと思います。おめでとうございます。  
野坂町長は選挙戦において、「次世代につなぐ川本町を創っていくために、  
今日から一緒に奏でましょう」。公約「目指す5つのまちづくり」を掲げら  
れていました。これから川本丸船長として町民は野坂町長に託したわけです  
が、街頭演説の中で、「三宅町政の良いところは継承しつつ、私の思いをネ  
ットワークに広げて、私なりの町づくりを加えて展開する」と、ありました。  
新町長所信の一旦を伺います。  
では、通告書にもとづきまして質問します。  
町中が笑顔で輝く街、かわもとづくりの取り組みについて問う、もので  
あります。  
ひとつ、総合戦略の総括と次期総合戦略について、お尋ねします。総合戦  
略には「地域との協奏」を掲げられた新町長の意向が踏まえらるべきであ  
ると思います。人口対策である次期総合戦略について、町長の考え方と策定

2番 木村議員	<p>時期を問うものであります。</p> <p>ひとつ、人口減少を歯止め対策として何が一番か。雇用確保対策として、株式会社三協島根川本工場の今後の支援対策について問うものであります。</p> <p>ひとつ、弓市魅力活性化構想について、お尋ねします。</p> <p>弓市の衰退は、川本町の衰退である。弓市地区を守る取り組みの基本姿勢について問うものであります。以上であります。</p>
議 長	<p>それでは、木村議員の質問「町中が笑顔で輝く街、かわもとづくりの取り組みについて問う」に対する、答弁をお願いします。</p> <p>番外野坂町長。</p>
番外 野坂町長	<p>木村議員ご質問の1項目め、「総合戦略の総括と次期総合戦略ついて問う」にお答えいたします。</p> <p>現行の総合戦略は計画の最終年度を迎え、全国の自治体が次期計画の策定に向け取り組みを進めている状況にあります。こうした中、県におかれましては、次期戦略である「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる」との、島根創生計画が示されたところであります。</p> <p>本町における次期総合戦略は、この総合計画との関連を持たせる極めて重要な計画であると認識しておりますが、まずは最終年度となっている現行の戦略をしっかりと検証し、前三宅町政の有効な取り組みについて継承するとともに、このたび私が提唱いたしました次世代につなぐ「かわもとまち」を創っていくために、町民の皆様と共に奏でることを公約した「目指す5つのまちづくり」である、1つ、地域の特色を活かした産業のまちづくり。2つ、安全・安心で活力のある暮らしを守る基盤づくり。3つ、幸せを実現する生活環境づくり。4つ、次世代を担う人づくり。5つ、新しい人の流れづくり、これを盛り込んでいくことが肝要であるというふうに考えております。</p> <p>そのために、このたびの施政方針で述べましたとおり、地域の産業や、町民の方々の生活実情を私自身がしっかりと見極め、いただいたご意見を施策に反映していくことが重要であると考えております。また、多くの課題を共有する石見地方の市町との連携は基より、県との連携を深めるとともに、議会の皆様をはじめ内外の各方面からの意見をお聞きし、計画に反映したいと考えております。この基本姿勢のもと、行政のPDCAに基づき、今年度までの取り組みについてしっかりと検証し、内容を十分精査したうえで計画を策定したいというふうに考えており、また、戦略の開始時期につきましては、早期に判断してまいりたいというふうに考えております。</p>
議 長	<p>番外湯浅産業振興課長。</p>
番外湯浅産 業振興課長	<p>木村議員の2項目め、「人口減少歯止め対策として何が一番か問う」についてお答えいたします。まず、人口減少対策としましては、エゴマをはじめ</p>

番外湯浅産  
業振興課長

とする特産品など農林業の振興や、商店活性化など中小企業の支援、さらには企業誘致による雇用の確保をベースとして、観光振興など交流人口の拡大による町のイメージや魅力の向上が重要であります。加えて定住住宅の整備や、子育て・学びへの支援、起業へのチャレンジなどを総合的かつ重層的に支援していくことが重要だと考えます。なかでも、雇用の場の確保という点では、平成30年4月の竣工時に13人でスタートした株式会社三協による島根工場は現在では30名に拡大されております。

工場の進出により、地域の活性化、ひいては人口増に結びつけたいとの高みを目指しておられる社長の思いを、本町がしっかり受け止め、連携して地域を活性化していくという姿勢が不可欠です。町といたしましては、引き続き人材確保に向けて、ハローワークなど国や県の機関と連携して強力に支援してまいります。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

木村議員ご質問の3項目め「弓市魅力活性化構想について問う」にお答えします。弓市地区の魅力化検討につきましては、町長の令和2年度施政方針で示されたとおり、これまでの検証の結果を踏まえ、ソフト・ハード面において地区全体の居住、施設、医療連携等の要素を勘案し、総合的・戦略的に中心市街地の将来像を共有するために、関係機関との協議を進めてまいります。徒歩圏内に、行政・病院・店舗・金融機関などの生活機能が整備された、県内においてもあまり例を見ないコンパクトタウンであることから、魅力化を進め多くの方々に集っていただくことは元より、議員ご指摘のとおり、弓市地区の衰退は川本町の衰退であるとの認識をしております。魅力化に向けたベースとなる構想は纏めておりますので、持続可能なまちづくりに向け、具体的なビジョンの方向付けをしたいと考えております。

議 長

再質問がありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員

最初の総合戦略の関係でございますが、平成26年、日本創生会議の消滅可能都市の公表に端を発し、国は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定をいたしました。この総合戦略は、地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする、地方への新しい人の流れをつくり、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶える時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する、こういう4つの基本目標を掲げられました。本町としては総合戦略について、「夢と可能性に挑戦する人材が循環するまち」のスローガンをもとに、平成27年10月に「川本町総合戦略」を策定されたところであります。総合戦略には、施策の効果を客観的に検証出来るよう、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を策定され、その達成状況に基づき効果検証を行い、必要に応じて総合戦略の策定を行う仕組み「PDCA」を

2番  
木村議員 取り入れたとありますが、新町長として前職から見られた、分析意見を伺いたいと思います。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 町長へというところでしたが、これまでの総合戦略につきまして、議員にありましたとおり27年からスタートをしているというところがございます。これについては毎年度検証しているというところで、この検証結果については毎年度結果を議会の方で全員協議会の方で報告をさせていただいているというところがございます。この検証体制につきましてですが、第1次検証としては課内というところで担当課で検証しております。2次検証につきましては、町長、副町長、教育長という庁内委員で検証していただいております。それから最終的にご指摘のありました外部検証という事になります。これは産官学民労という事で、商工会、川本町議会からもご参画をいただいております。それから教育関係では中央高校でありますPTAの方、それから地域婦人会等の方にご参画をいただいております。外部検証をしているというところがございます。直近の外部検証につきましては、4年目の検証でございますが、9月の定例会でこれも全協でご報告をさせていただいたところがございますが、この時の意見を外部検証の意見を申しますと、人口減少対策は町の最重要課題である、引き続き力を入れて取り組むこと。KPI、これは重要業績評価指数でございますが、進捗管理及び事業の評価に対し適切でないものやアンケート調査の未実施により、把握が出来ていないものがある。次期総合戦略策定にあたっては、指数を見直し検討を十分に行うこと。それから目標値を達成しているKPIは、適宜、情報修正を行い進捗管理をすること。施策の目指す方向性に合致する事業は、戦略に盛り込みKPIで進捗管理を行うこと。次期戦略の策定にあたり、現行戦略で未達成の施策の内部検証を十分に行い、施策の実現可能性を高め、実効性のある総合戦略を策定する事とされております。

議 長 再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員 確かに平成30年度分川本町総合戦略検証結果がホームページにもアップされています。町民の皆さんもある程度ご存知かなと思いますが。では、人口ビジョンについて、お尋ねしたいと思います。今も中でも検証等がありましたけれども、今後見込まれます人口減少と、少子化高齢化は本町における社会構造に大きな変化をもたらす、税収の減による財政規模の縮小は各種行政サービスやインフラ整備、三江線代替等の公共交通の維持など、これまで当たり前提供されていたものの、見直しが余儀なくされるものと考えています。このため、人口減少や少子高齢化の進展に合わせて、税収など歳入に見合った財政運営が必要であり、選択と集中による施策の取捨選択が必要に

2番  
木村議員 なる事も想定しておかなければなりません。総合戦略の中で本町の目標人口に対して、人口減少は一定の歯止めはあるとされていますが、次年度、令和2年10月1日現在で国政調査が実施されます。野坂町長として町政継承するための財源確保からみた人口目標数についてのお考えがありましたらお尋ねします。

議 長 番外野坂町長。

番外  
野坂町長 今の人口減少対策の根幹となる、今の町の人口の推移に基づいてどう見るかというお尋ねであろうかと思えます。これはですね、本町は自然減の方は残念ながら進んでおりますが、社会増がですね少しずつではありますが、この県内の今の自治体の中で社会増を呼び込んでいるのは、非常に限られております。一見厳しい状況にある中で、こうした社会増を呼び込んでいる、こういう施策を議員ご指摘の従来の施策の検証の中で、しっかりと検証してまいりたいというふうに考えております。先ほど課長が申しましたように、その施策の検証を踏まえて次の戦略に活かすという事で、課内での一次検証体制、それから二次体制は私のところと副町長・教育長で、この二次のところではしっかりと施策を検証してまいりたいというふうに考えております。それを策定中の次の計画・戦略に反映していきたいというふうに考えておまして、今の実情であれば本町が目指している推移というのは、県の人口シミュレーションよりも減少の推移がちょっと緩やかになっているというふうな受け止めております。これらを意識しながら次の施策を検討してまいりたいと考えております。

議 長 再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員 3月2日の山陰中央新報の山陰総合版で「人口減少対策の通信簿」が、川本町について掲載されておりました。総合戦略検証として、いちばんに島根県川本町の目標未達成で目立つのは、結婚支援の充実でカップル成立を後押しして出生数の向上につなげるねらいの「はっぴーコーデイナー」登録数で、19年度8人の目標に対して2名とありました。この報道は誤りで現在、川本町ははっぴーコーデイナーは6人と役場職員の支援員1名で7名体制で活動しております。昨年、10月20日、ふれあい公園ささゆりで、近隣2町に呼びかけて婚活たこやきパーティーやグラウンドゴルフ交流会を開催しました。カップルは3組進行中ではありますが、残念ながらカップルは川本町からの参加者ではありませんが、手弁当で頑張っています。はっぴーコーデイナーの皆さんに成り代わって、紹介しておきます。

そこで結婚支援の充実についてお尋ねしたい。ボランティアで縁結び活動の「しまねはっぴーコーデイナー」、愛称「はぴこ」について、どのような考えをもっているかお尋ねしたい。これまで、川本町として「出会いの

2番  
木村議員

場の創出」として、イベントを開催されてきましたが、今後の結婚支援の充実についてお尋ねします。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

まず最初に、新聞報道は間違っておりました。たいへんこれは担当課から示した数でございます。たいへん申し訳なく思っております。結婚支援につきましてですが、これまでも町として様々なイベント等々を実施しているところでございます。なかなかですね、結果に結びついていないというのが実情でございますが、ここにはやはり非常に参加していただける数が少ないというところもございます。一昨年はそれまで町で企画していたものを、外部に委託をして多くの方にもご参画をいただきましてけれども、なかなかそれも実現カップルという実現に至らなかったというところがございます。新聞報道で「はぴこ」の事が報道されたわけですがけれども、その中では社会増が3人という報道も為されておりました。直近5年間で亡くなられた方250名おられます。こういった自然の減少には歯止めが付かないというところがございますが、社会増としては直近5年で12名の方が増加していると。報道で示された令和元年について3名の方が社会増。それはいろんな要因はあると思いますが、先ほど町長が言いましたように自然減に歯止めはかけられない状況にありますが、社会増に本町は割と貢献しておりますので、人口減少のカーブは非常に緩やかになっていると、非常にではないですが、緩やかになっているというところがございます。一方でなぜ人が減るかというのはやっぱり出生率が少ないというところがございます。やはりそういった意味を考えると婚活の事業というのは非常に大切であるという認識はしてございます。新聞にもありましたように議員、先ほども仰いましたように、手弁当で今やっていただいているという状況でございます。町としては、やはり本町だけの活動というよりも、広域で連携した「はぴこ」の活動というのが、これは引いてはカップルの成立に大いに繋がるというふうに認識をしております。そういった意味では「はぴこ」の方がですね、他町の方に出向かれるであるとか、最初の出会いの時に食事をされるという時には、そういった経費というものは予算化すべきではないかというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員

たいへん良いお話ありがとうございました。はぴこはですね、私は発足当時からやっておりますので、ひとつご支援のほどありがたく受け取っております。続きまして、同じく山陰中央新報社の中の関連の記事でございますが、人口減少対策の通信簿の検証として、定住推進住宅の新規整備戸数、かわもと暮らし情報センターの移住相談件数、人口減少対策の指標となる年間出生者数等々、数値目標に対する達成度はまずまずの評価されています。にもか

2番  
木村議員 かわらず肝心の人口減少には歯止めがかかっていない。1955年国勢調査で11530人だった町人口は、その後、若者らの流出、少子高齢化が進み、2015年に3割弱の3442人まで減り、今や2000人台が迫る。この5年間の実績は、各施策の数値目標を積み上げただけでは、人口の右肩下がりは変えられないという現実を浮き彫りにし、起爆剤となる仕掛けや新しいアイデアを求めている、とありました。新町長が掲げる「産業のまちづくり」などの取り組みを人口減少対策とどう絡めるのか注目もされると、結んでありました。そこで、お尋ねします。株式会社三協島根川本工場設備増強の計画案等についての支援策について、お尋ねします。

議 長 番外産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 設備投資等の支援策でございます。川本町企業立地促進条例において、認定された企業向けに増加固定資本額、すなわち設備投資した額でございますが、その10%、上限70,000千円の川本町企業立地促進助成金がございます。三協のような製造業では増加固定資本の取得に要する経費の総額が1億円以上かつ新規雇用従業員が10名以上等といった要件に合致いたしますと、そういった助成をしておるところでございます。また、町の固定資産税につきましても、過疎地域における課税免除が定められております。また、島根県においても増加固定資本額に応じての助成や、新卒者、Uターン者の雇用では中山間地域の企業ですと、1人あたり1,300,000千円の助成があることや、不動産取得税など減免措置がございますので併せて活用できるように支援してまいります。

議 長 再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員 支援策として今お話を伺った以外に、工場開始当時はハローワーク等に川本町として、積極的に社員採用の説明会とか、見学会とか様々なイベントにPRし、社員の獲得をされておりましたが、現在あんまり声を聞きませんが、川本町としての具体的なそういうソフト的なアプローチについてありましたら、お尋ねしたい。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 会社説明会につきましては、これはやっております。例えばハローワークの会議室をお借りして、会社の休業日に実施したりとかということも、頻繁ではありませんが、やっております。私もその説明会に行きましたが、ある程度の人数が来られておりました。これは町内での無線をしたりして、おそらく皆さん聴かれて、それなりの人数が来られましたので周知はされているものというふうに思っております。あと、その他、例えば高校ですとか大学

番外湯浅産業振興課長 等の方の新卒者の採用というところでの学校廻り等も、町それから県と連携して行っております。

議長 はい、2番木村議員。

2番 木村議員 もっと以前に比べると少ないなというふうに感じておりますし、私も個人的ですけど職業訓練を担当しておりますので、卒業生を送り込むんですけど、やはり受けた後とどうしても静岡県の方へ研修へ行かなくちゃならないとかですね、そういう過程的なハードルが高いものがあります。そういうものについても、町としてやはりそういう意気込みがある方に、今後ともサポートしていただきたいなというふうに思います。

続いてですね、健康食品メーカーとして、川本町特産健康食品素材「エゴマ油」の関連商品開発に向けてのコラボレーションとの企画について、お尋ねしたいと思います。当初ですね、三協社長も島根工場開設の挨拶等で、地元エゴマを使った自社製品を開発したい旨のお話をしておられました。この事について、今、町としてどのような対応か、どのような情報を持って、どのようにされているのかなというふうにエゴマの再開発を含めて、拡大を含めて町民の収入獲得の為にもですね、どのように町としてお考えかをお尋ねします。

議長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 三協による島根川本工場の進出でございますが、エゴマを始めとする地域資源とのコラボも意識されてのものでございます。新商品化には、多大な予算や準備が必要であると考えられます。例えば新たな商品化に向けては企業側からの具体的な相談がございましたら、市場での可能性調査等が必要であると考えられますので、県商工労働部、県産業技術センター及び県産業振興財団等と連携して支援をして参ります。また、進出する時のエゴマとのコラボの企画のお話でございますが、これは三協ホールディングスの特にソフトカプセル技術を要した機能性食品の開発で、認知症に有効なカプセルの開発だったというふうに記憶をしております。その後の検討段階から実施に向けての経過は現在、承知しておりませんが、エゴマの機能性と商品開発の展望、それから化学的効果が検証される事が、必要であります。県レベルで大学産業技術センター、或いは県の6次産業化のセクションで構成される支援体制で支援していくという事になろうかと思いますが、現在は検証と検討の段階ではないかと思っております。実施になりましたら、町としても生産者団体と共有して支援していく事になろうかと思っております。

議長 再質問ありますか。2番木村議員。



2番  
木村議員 是非ですね、やはり全国でも名を馳せたエゴマ産地の川本町でございますので、産業化に向けて唯一の突破口になるひとつの商品だというふうに考えますので、今、課長からご説明いただきましたように企業から相談があるという事ではなくて、あらゆるチャンネルを使って是非、エゴマ生産者の皆さん、川本の農業でやってらっしゃる方の励みになるようなものについて町には取り組んでいただきたいなと思います。

次、伺います。株式会社三協の社長がですね、川本町へ進出したときに提唱されておられました観光客誘致となる三協島根工場周辺公園整備について、お尋ねしたいと思います。三協社長は工場進出に際し、企業が利益を上げるだけでなく、地元川本町の活性化及び経済が潤う事が大切であると挨拶がありました。そして工場近辺に会社も町づくりの一環、社員や地域の人など訪れるみんなが憩える空間に、というコンセプトで農村公園をつくり河津さくらを植栽し、広島、山口より多数観光客が訪れる施設を目指すと言言されておりましたが、現在、社長が意図される構想になっているか、川本町の取り組みについてお尋ねします。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 町にとりまして、大きな課題であります地域活性化を目指すという意味におきましては、現在、実現化策が検討されている桜の植栽ですとか、将来的な農村公園など、町の魅力やPRにつながるような取り組みを同社と連携して検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 2番木村議員。

2番  
木村議員 これまでに数多くの河津さくらを寄附していただきましたけれど、あちらこちらで三原の河川敷に植えられたり、いろいろ伺っていますが、そういうような寄附をいただいた河津さくらについての植栽の現状とか、どのような形で管理されているか、という事について把握していらっしゃいましたらお願いします。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 これまで3年間、桜を寄附していただきまして、主には個別で配布をさせていただき、各個人さん或いは団体で管理をしておられる状況です。今後につきましては、まとまった地域で植栽をするという事で現在、三協の社長と検討をしております。今後に向けてはそういった事で観光ですとか、町の魅力アップ、PRというところに向けての作業になろうかというふうに思っております。

議 長

再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員

是非、社長の構想等に沿うように私たちもせっかく寄附していただいた事でございますので、川本も社長が言ってらっしゃいましたように、観光客が多く来ていただいて、川本の経済が潤うという事について、今後とも続けていただきたいなと思っています。

次にですね、昨年6月に国が示した、まち・ひと・しごとの創生基本方針2019年において、第2期総合戦略の策定に向けて、第1期戦略の枠組みを継続しつつ充実強化を図ることとされています。先ほど町長も仰いましたけど、島根県は人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根づくり、島根創生計画が策定されております。野坂新町長はマスコミ取材で当選後はどんな施策に力をいれますかという問いにですね、町民の暮らしを守ると同時に、攻めの町政を進めると発言されておられました。次期総合戦略に占める攻めの町政としての方針等がございましたらお尋ねします。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

今のご質問の攻めの町政という事で、私は5つの町づくりのところで、先ず1番に地域の特色を活かした産業のまちづくり、という事を掲げておまして小学校区、或いは公民館区を意識して、それぞれエリアをイメージしたまちづくりをしっかりと検討していきたいと思っております。ひとつは、この川本地区、とりわけ民地につきましては、魅力化構想が提案されております。そこを非常にこれは国或いは政策面ではコンパクトシティという、そういった都市が発生したことに連動して自ずとそういう言葉が出来てきておりますが、まさに私はこの町はですね、500メートル以内に全ての生活に必要な機能があるという類い希なエリアだという事で、コンパクトタウンというふうに言いたいわけですが、そういった事を今回示された構想をしっかりと私なりにイメージを落とし込み、皆さんの意見を聞きながら持続可能な弓市のまちづくりをひとつやっていきたいと思っております。2つめは、いわゆる因原エリア、これは道の駅を中心として地産地消の拠点であると同時に、今の陰陽の山陰と山陽の結節点という事がありまして、ここはまた郊外型店舗の出ているという事もありまして、そういう意味では圏域の地域内経済循環を意識した、そういった町づくりが出来ないかというイメージを持っております。また三原エリアにつきましては、丸山城が県の史跡になり、それからエゴマがあり或いは地元でどぶろくをお造りになっているといったような、こういった地域の資源をストーリー化して発信していく、こういったような事をイメージをしているところでございます。議員の皆さまの意見もお聞きしながら町民の皆さまの意見もお聞きしながらですね、町を外に売り出していくと。人を呼び込んでいくと、そういった施策を私なりの攻めという言葉で表現し

番外  
野坂町長 たわけですが、そういった事をもって町を更に持続可能に、そして更に外向きに発信していく。こういった事を考えていきたいと考えております。

議 長 2 番木村議員。

2 番  
木村議員 はい、ありがとうございました。今コンパクトタウンと仰いましたけど総合戦略で小さな拠点づくりという事をお尋ねしようと思いましたが、お答えいただきましたので、ありがとうございました。それに支える人材と言いますか、その中の核となっていたきたい地域おこし協力隊の任用後の定着支援等の関係についてお尋ねしたいと思います。毎年、川本町のために全国から地域おこしに応募いただき活躍されておりますが、それなりに貢献していただき任期終了後、多角の活躍の場を求めて転移される事も多くございます。残っていただきました優秀な地域おこし協力隊の定着支援について、もっと川本町として独自の支援策、当然ながら地域おこしの契約後の支援策はありますが、それ以外にもっとせっかくの良い人材を残っていただく。また残っていただいた後の支援策についてお考えがありましたらお願いします。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本  
まちづくり推  
進課長 地域おこし協力隊の方々についてのご質問でございますが、過去から今現在まで含めて26名の方が、この川本町にお越しにいただいているという状況でございます。その中で一応任期を満了された、途中で事情により解職された方も居られますが、これが15名でございます。この15名のうち8名の方が町に定住をされたというところでございます。この地域おこし協力隊員につきましては、ひとつの目的としては地域を盛り上げていただくということと、もうひとつは定住に繋げていくというところの目的がございます。そういった意味では全ての方に定住していただかなければならないという状況でございますが、半分以上の方は定住をいただいていると。特徴的であるのは、やはり起業された方が非常に多いというところがございます。町としてはそういった起業に向けての予算も持っているご承知のとおりだと思いますが、それ以外にも産業振興課が進めております弓市のビジネスチャレンジコンペティションというのは、これにも地域おこし協力隊員の方も応募されて、今年度の事業も地域おこし協力隊員の方が採択されているという状況でございます。定住に向けてはこれからもいろいろと策は考えていかなければならないというふうに考えておりますが、そういったひとつには起業に向けての支援がどういったものかという事も検討していきたいと思っております。

議 長 2 番木村議員。

2 番 関連でですね、教育長にお尋ねしますが、やはり川本も緑こだます音楽の

木村議員	町として地域おこし協力隊等の関係も活躍されていると思いますが、今後、緑こだます音楽の町の全国発信に関わる地域おこし協力隊等の考え方についてお尋ねします。
議 長	番外鉦教育長。
番外 鉦教育長	緑こだます音楽の里宣言を致しまして、今、続いているわけですが、やはりそうしたこの町に相応しい人材と言いますか、そういった事でそういうマッチしたような人材があれば、それはそれなりに検討して考えていきたいというふうに考えております。以上です。
議 長	再質問ありますか。2番木村議員。
2番 木村議員	あればじゃなくて、積極的にしないとブラスバンド等を含めて音楽の町というキャッチフレーズをどのように考えているのかという、逆に聞きたいなと、あればという事が、無ければしないという発想なんでしょうか。
議 長	番外鉦教育長。
番外 鉦教育長	あればと言え言いがあれますが、やはりそういった川本町は音楽の素材というものが昔から、所謂、昔の川本高校の時代のブラスバンド吹奏楽から始まって、いろんな形でそういう音楽というものが育ってきているわけですので、ですからあればと言えあれますが、そういった相応しい人材という事になれば、やはり町としてもそういった形で考えていきたいというふうには考えております。
議 長	2番木村議員。
2番 木村議員	もっとねお願いします。次にですね、地域魅力化活性化構想についてお尋ねします。先ほど野坂新町長は川本町中心地の弓市地区は半径500メートル圏内に学校やスーパー、病院、金融機関等の生活機能は揃う地域であろうと。これほどのコンパクト負担はないというふうに言われました。これは全国PRしたい。商店を人が巡り消費者を促す仕掛けを掛けると発言されましたが、具体的な構想についてひとつずつお尋ねしたいと思います。 1つは、弓市衰退は川本町の衰退である。弓市地区を守る取り組みの基本姿勢について、再度お尋ねします。
議 長	番外杉本まちづくり推進課長。
番外杉本ま	弓市地区の取り組みに対する基本姿勢というところがございます。これは

ちづくり推進課長 ですね、今年に入って開催された第1回臨時会、1月26日だったと思いますけども、そこで示しているところでございます。一昨年掛けて議員にもご参画をいただいた弓市魅力化の検討委員会というのをやってまいりました。それ以外にワークショップでありますとか、個別のワーキング会議については一昨年から引き続き毎月1回程度やっている。これは子育てに関したところのワーキンググループの会議でございますが、これは中山間地研究センターの方にも入っていただいて開催しているというところでございます。その時に示させていただいた基本的な姿勢と言いましょか、基本的な構想というものは、一応弓市地区を4つのゾーンに分けてそれぞれに取り組みをしていこうと。ひとつは、歩いて暮らせる居住ゾーンでありますとか、文化・教育・医療・福祉ゾーン、公共高等学校ゾーン、町全域の拠点生活機能拠点ゾーンというような、それぞれのゾーンに分けてその取り組みをしていくというところが基本姿勢になってございます。

議 長 再質問ありますか。2番木村議員。

2番 木村議員 ご紹介いただきましたように私も委員でございますので、もっと積極的にいきたいと思っています。それから今もお話いただきましたが、ワークショップ課題・魅力・ビジョンの具体化について、それなりに出されておりますが、具体化について今後どのような取り組みをされるかについてお尋ねします。

議 長 番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本まちづくり推進課長 具体的な取り組みというところでございます。これはですね、なかなか未だ表面に出せないというところがあるというところをご承知おきいただきたい。これは未だ担当課としては、まとめたもの、これは委員会の中ではご紹介させていただいたところでございますが、あまりに多方面の関係する機関が多くございます。そういったところのコンセンサスを未だ得ていないというところがありますので、徐々にそういった関係機関と協議を進めながら、その項目を多数あったというふうに思っておりますが、どれを先ずやるのか、どれがなかなか難しいのかというところを、これからまとめていきたいと。またそれをまとめた上で、示していきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。2番木村議員。

2番 木村議員 とても良いワンペでまとめていただいております。これを早くオープンできるようにしていただきたいなと思っておりますし、公表できないのが私としても残念だなと思っておりますし、予町民の期待に応えるものが盛りだくさん入っています。それを是非早く具現化をしていただきたいなと思っております。

2番  
木村議員

その中にもありますが、水害に強い基礎づくりとして、弓市地区の堤防強化等の関係について、この委員会についても様々な論議をし、水害等の対策について、やはり川本町の弓市だけではないんですけど、水害災害対策について一番根幹である安全安心を守るのが一番肝心であるというふうに捉えておりますが、この件についてどのように今お考えかどうかをお尋ねします。

議 長

番外地域整備課長。

番外宇山地  
域整備課長

失礼します。弓市の発展につきましては、川本堤防の嵩上げ修繕は必要不可欠なものだと認識をしております。国の方にも早期事業実現に向けて働き掛けをしておりますが、まだ具体的なものは出ておりません。今後も強く働き掛けをしていきたいと考えております。

議 長

再質問ありますか。2番木村議員。

2番  
木村議員

他の議員の方も同様な意見をいろいろお持ちだと思いますし、質問も出てくるとお思いますので、ここでおきます。まちごと魅力化センター運営についてですね、お尋ねしたいんですけど、交流スペースですね、学生さんばかりじゃなくて、当初、委員会の中でも出ておりましたけど、一般の方が使える交流スペース等のお話がありましたが、この関係についてどのような利用方法をお考えなのか、オープンの中から使えるのか、ある程度、制限があるのかという事についてお尋ねします。

議 長

番外杉本まちづくり推進課長。

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

まちごと魅力化センターでございますが、今、建物もずいぶん立ち上がってきたというところでございます。施設につきましては、6月末の完成を目指して今、建設をしているというところでございます。その中には、議員ご指摘の交流スペースというものも勿論ございます。これは一般の方が使用可能な施設というところでございますが、これは中央高校に通う女子生徒が長期滞在が出来る施設という事で48名を想定しておりますが、県の教育委員会からは、その施設を「みなし寮」としてご指定をいただくと。そうする事で様々なランニングコストも県もスキーム（＝計画・案）を持っておられますので、そういったところから予算の支出があるというところでございますが、やはり「みなし寮」になる以上は少し制約というものがあろうかというふうに思っております。例えばですね、そこで飲食といった会議の後に交流会をしましょうといった事も、ちょっと制限が掛かるかも知れません。ただ担当課として考えておりますので、やはり高齢者が集うサロンというものも勿論ございませんし、有るには有るんですけども少ないというところがありますので、大いにそういった方々にも使っていただきたいと思っておりますし、弓

番外杉本ま  
ちづくり推  
進課長

市の自治会館が少ないというふうに言われております。自治会に関する会議とかそういった事にもご利用可能であるというふうに認識しておりますし、もうひとつはせっかく中央高校の「みなし寮」というふうに認められる施設でありますので、そういった中においては町との関わりというものを是非、生徒さんにも持っていただきたいと思っております。そういった場面で施設を活用出来ればというふうに思っております。

議 長

2 番木村議員。

2 番  
木村議員

是非お願いします。今も弓市の中ですね、年配の方が集まってお話、食べる場所がない。一人暮らしとかいろいろな方が居られます。是非そういう交流の場として活用していただくように、よろしくお願い致します。終わりにですね、これまで川本商工会等より弓市活性化モデルを提起されておりますが、再度、新提案を検討されるというふうに聞いております。新町長として弓市の活性化等の関係について、トップダウン方式なのか、ボトムアップ方式なのかですね、いろいろとお考えがあらうかと思いますが、ポイントとして新町長としては、どちらの方を重点的におかれて今後そういうまちごと魅力化の事について、お考えなのかという事についてお尋ねします。

議 長

番外野坂町長。

番外  
野坂町長

お尋ねは、私のその弓市地区魅力化構想の私なりの進め方についてであろうと思います。私はこの度、魅力化構想が示されたのを受けまして、是非このタイミングで川本の将来を担う弓市のところの魅力化を私としても是非、実現したいという思いを強くしながら就任させていただいたところであります。ワークショップも開きながら、いろんな手法で検討しておられます。私はトップダウン方式とボトムアップ両方、タイミングに応じて織り交ぜながら進めたいと思います。実は就任直後の庁議におきまして、この事については触れまして、まちづくり推進課が中心にまとめましたけれども、関係課の課長で構成する検討の場を設けます。またその下に関係する補佐で構成するワーキンググループを設置したいというふうに、冒頭の初っぱなの庁議で指示を出したところであります。そうした事と並行して、それで検討した事に関係する皆さんにまたもんでいただいて、また、あげていただくというボトムアップ、トップダウンをタイミングに応じて織り交ぜながら、またこれはその手法を持ちながらスピード感をもって具現化していくように、しっかりと取り組んで参りたいと考えております。

議 長

2 番木村議員。

2 番

はい、ありがとうございます。弓市の魅力化に向けたスローガンのように、

木村議員 住み続けられる住み続けたい町づくりを確立するよう、今、町長に発言いただきましたけれども、スピード感をもって皆さんが期待しておりますので、よろしくお願いします。以上で終わります。

議 長 以上で、「町中が笑顔で輝く街、かわもとづくりの取り組みについて問う」の質問を終了いたします。

々 これをもちまして、木村議員の一般質問を終了します。

々 お諮りいたします。このまま続けてよろしいですか。  
休憩がいらいますか。  
（「はい」の声あり）

はい、それでは暫時休憩といたします。

10時35分から再開いたします。

（午前10時24分）